

クドバス活用による 子育て支援社会連携研究センター事業評価に関する研究

西村美東士

1. 目的

子育て支援社会連携研究センター(以下、支援センターと呼ぶ)の経営において、PDCAサイクル(plan, do, check, act)を実現するため、効果的な評価(check)のあり方を提起する。

2. 方法

支援センターの機能に関する「クドバスチャート」成果を利用して、「センター評価票試案」を作成し、期待できる効果を検討する。

また、おもにテーマ2「親能力確実習得」に関する研究で得られつつある仮説に基づき、「利用者評価票試案」を作成し、期待できる効果を検討する。

3. 経過

平成18年3月7日及び同月29日にクドバスワークショップを実施し、支援センターの機能に関する「クドバスチャート」を作成した(西村美東士「クドバスワークショップによる子育て支援社会連携研究センター機能の検討」、本書)。

本成果をもとに、支援センターのスタッフである教員と保育者の努力により、現実のセンター事業の実践をおとして、適正な事業評価のための検討が進められつつある。

しかし、本稿では、「クドバスチャート」から直接作成できる「評価票試案」を示し、期待できる効果を検討したい。

また、本研究全体をおとして、子育て支援事業のもつ効果が明らかになりつつある。

とくに、テーマ2「親能力確実習得」の研究においては、関連事業が、親及び親子関係に対して与える効果について、一定の仮説の設定が進みつつある。

この仮説に関して、筆者の検討結果として、「親の能力開発ラダー」(図1)を示しておきたい(西村美東士「構造的な理解に基づく子育て学習の支援のためにー子育て支援学習における学生の社会的視野拡大の事例からの検討ー」、

『日本生涯教育学会論集』、27号、p.51、2006年7月)。

レベル4	子育てまちづくりへの参画
↑	契機(親の会や地域社会での活動)
レベル3	自分自身や家族関係に対する気づき
↑	契機(家族の問題解決の取り組み)
レベル2	自分の子育て行動に対する気づき
↑	契機(わが子の問題解決の取り組み)
レベル1	わが子のことをよく見る

図1 親の能力開発ラダー

現段階では、上記仮説の妥当性は、まだ十分には検証されていない。また、一般の職業能力開発ラダーとは異なり、循環、後退、飛び越しなどの過程が多く見られると推察される。それらの過程の分析も含めて、今後詳しく検討していきたい。

本稿では、本仮説に基づいて、「利用者評価票試案」を作成する。すなわち、親の対「わが子」、対「自分自身」、対「他の親」、対「社会」のそれぞれの気づきを、子育て支援効果の重要な要素として認識し、その効果について親自身が回答する「評価票」を作成し、期待できる効果を検討したい。

4. 結果

4-1 「センター評価票」の効果

「センター評価票試案」を表1に示す。なお、表1では、重要度レベルCのカードは割愛してある。表1から、本試案は次の効果が期待できると考える。

- ① 「必要度/達成度」から、事業計画における優先度を導き出すことができる。また、優先度の最低点0.2(1/5)から最高点5.0(5/1)までを5つに区切り、各機能を1から5までに分類することができる。
- ② 各機能について、1と2を灰色系、3を青系、4と5を赤系の色で棒グラフのように塗りつぶせば、視覚的に「温度差」を表すことができる。
- ③ 本票の右半分をセンター職員の機能により、

1:できない、2:指導者がいればできる、3:一人でできる、4:工夫や改善ができる、5 職員に教えることができる、の5分類で分析すれば、適正な人員配置計画や効果的な研修計画が可能になる。

なお、クドバスは、必ず実行計画に結びつけることが原則である。そのため、支援センターの日々の実践のなかから実現困難であると判断される事項については削除するなどして、本票を「実行するための評価ツール」として完成させる必要がある。

4-2 「利用者評価票」の効果

「利用者評価票試案」を表 2 に示す。表 2 から、本試案は次の効果が期待できると考える。

- ① 親の気づき過程に対する支援効果を分析的に明らかにすることができる。
- ② 支援センターの他の事業や、他団体の事業のもつ効果との比較研究の対象にすることができる。
- ③ 子育て支援社会連携研究の趣旨について、回答する親の理解を得る機会になりうる。そのことによって、支援される客体から、「個人内完結型」から「社会に開かれた子育て観」への転換の契機になり、参加、協力、参画する主体に発展する可能性が期待できる。

なお、本票は比較研究のため、「にこにこキッズ」の利用者評価票としては、ほとんど期待できない項目も含まれている。すべての項目において効果が毎回表れるはずがないことは当然の前提であるが、「にこにこキッズ」の日常の実践のなかで、必要に応じて現実的な項目に修正する必要があると考える。

5. 課題

「check」の結果を「act」、「plan」に結びつけるためには、機能分析とともに、その機能を実現するための機能分析が必要になると考える。この点について、検討を進めていきたい。

また、親の気づき効果については、「後戻りがない」本来の能力ラダーの究明を目指したい。

表1 センター評価票試案

[illegible]

(注) 達成度()で示している。
 ② できないときが多い。
 ③ できないときもできるときもある。
 ④ できるときが多い。
 ⑤ ほとんど達成できている。

必要度) 他の事案で対応してよい。
2 事件が思った通りに実施すればよい。
3 10日以内に実施する必要がある。
4 1年以内に実施する必要がある。
5 すぐになんてでも実施する必要がある。

表 2 利用者評価票試案

聖徳大学子育て支援社会連携研究アンケート
この調査は、よりよい青少年事業、親子対象事業、子育て支援事業をめざして行うものです。あなた個人のお考えを率直にお答えください。

事業名 (ここにキッズ)
あなたのおもな立場

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

ボランティア 職員 教員 親 その他 []

Q1.今日の事業は、親に対してどんな効果を与えたと思いますか。各項目ごとに回答してください。
(あなたの印象をお答えください。)

そうだ まあ どちらとも あまりそ そうでは
 そうだ いえない うではな ない

【子育てに関して】

1-1	自分の子育ての問題点に気づく	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
1-2	自分の子育てで長所に気づく	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
1-3	自分の子育ての目標を見つける	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
1-4	自分の気持ちを表す言葉が見つかる	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
1-5	子育てに自信が持てるようになる	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)

【親子関係に関して】

2-1	自分の気持ちをわが子に伝えようとする	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
2-2	わが子のよいところに気づく	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
2-3	わが子を信頼しようとする	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
2-4	わが子の痛みを思うようになる	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
2-5	よその子どもとも交流しようとする	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)

【親同士の関係に関して】

3-1	自分の気持ちを他の親に伝えようとする	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
3-2	他の親のよいところに気づく	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
3-3	他の親の痛みを思うようになる	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
3-4	他の親と一緒に行動しようとする	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
3-5	他の親を励まそうとする	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)

【まちや暮らしに関して】

4-1	暮らしのことについて関心をもてる	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
4-2	まちの様子について関心をもてる	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
4-3	世の中の出来事や問題に関心をもてる	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
4-4	地域や社会に働きかけたい気持ちになる	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
4-5	地域や社会を共に考える人々と活動したい	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)

Q2.今日の事業のなかで、親に対してもっとも効果があったと思う場面と、その効果をお書きください。(3つまで)
1
2
3

Q3.今日の事業は、今後どのようにすれば、親に対してよりよい効果を与えられると思いますか。自由にお書きください。

♪♪ ご協力いただき、ありがとうございました。 ♪♪